

経営比較分析表（平成29年度決算）

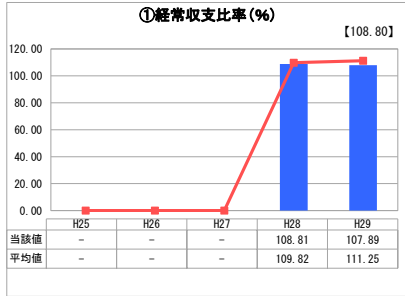
神奈川県 座間市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	58.87	97.35	94.07	2,370

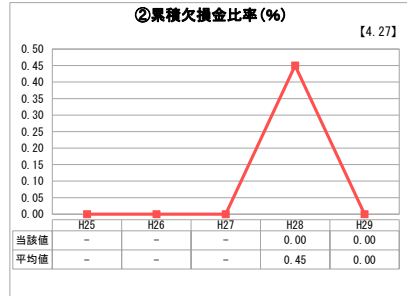
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
130,519	17.57	7,428.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
126,977	12.05	10,537.51

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

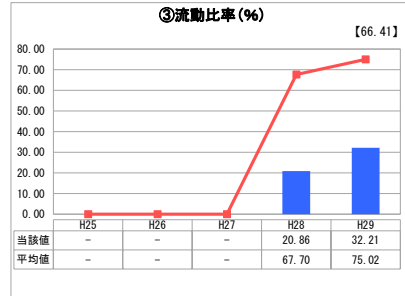
1. 経営の健全性・効率性



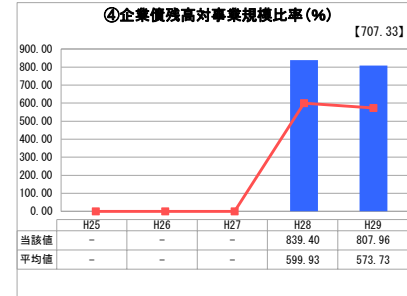
「経常損益」



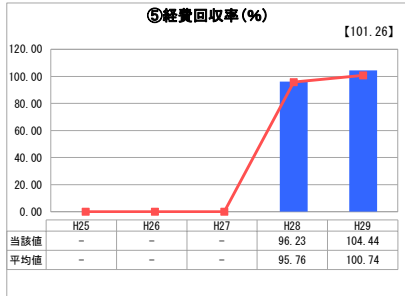
「累積欠損」



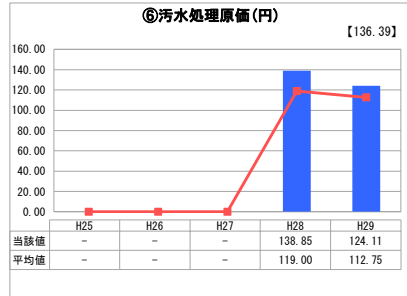
「支払能力」



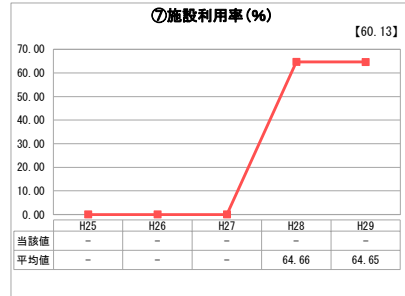
「債務残高」



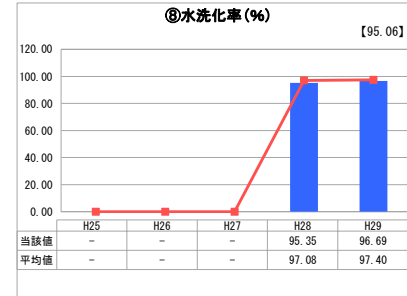
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

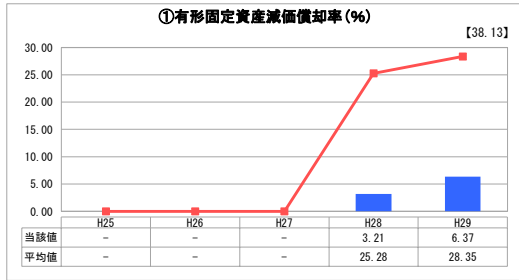


「施設の効率性」

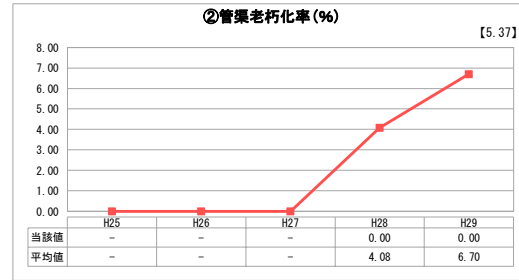


「使用対象の捕捉」

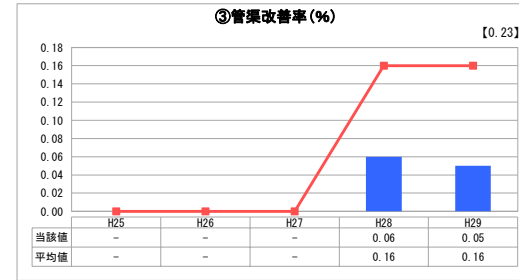
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市では、平成28年4月1日から地方公営企業法を適用しました。経常収支比率は前年度とほぼ横ばいで、100%以上を維持しています。また、経費回収率は100%超となり、汚水処理原価が回収できている状態です。しかし、企業債残高が多く、高額な償還額の影響によって、流動比率は100%を大きく下回っています。また、企業債残高対事業規模比率は前年度と比較して企業債残高の減少、収益の増加によって良好なもの、類似団体と比べて依然高い数値であり、課題となっています。そのため、一般会計からの補助金への依存が強いことから、厳しい経営状況が続くと予想されます。

2. 老朽化の状況について

下水道施設の管渠は、30年以上経過すると破損の危険性が高くなるといわれていますが、本市の下水道施設は昭和48年度から整備を行っているため、適正な維持管理や改築が必要となります。有形固定資産減価償却率は類似団体と比較して数値が低く、また、管渠老朽化率は0%であり、資産の老朽化度合は良好といえます。老朽化対策としては、長寿命化計画に基づく施設の延命措置を実施し、将来的な改築時期及び費用の平準化を図ります。

全体総括

本市の下水道事業は経営の健全性が改善傾向であるものの、将来的に厳しい経営状況が続くと考えられます。平成28年度に下水道使用料の改定を実施し、改定後は経費回収率が100%を上回りました。更に平成32年度からも改定を実施する予定であり、健全な経営を目指します。また、公共下水道の水洗化率向上のため、広報活動や未接続世帯への個別訪問等を行い、公共下水道への接続促進を図ります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。